

導入事例

ASH CORPORATION CUSTOMER STORIES :
PANASONICEIZO

導入事例

パナソニック映像

A professional video production control room. In the foreground, there are several computer monitors displaying video editing software with multiple tracks and a color calibration chart. To the left, a professional video camera is mounted on a rig. In the background, a large monitor displays the 'QTake' logo and another color calibration chart. The room is dimly lit, with the primary light source being the screens.

ビデオアシストシステム『QTAKE』で
マルチカメラ収録とプレイバックの
質を高めたCM制作を実現



映像コンテンツを“確実”かつ“迅速”に制作できる トータルワークフローが可能に

ドラマ / CM撮影、ライブ中継、編集、カラーグレーディング、VFX制作、MA、CG、ディスクオーサリングなど、映像制作の技術を幅広く提供しているパナソニック映像株式会社。

ハイエンド向けの映像制作を担当する同社の撮影チームには、カメラマンからDITまで映像制作のトータルワークフローを支える人材が集結している。

CM制作の現場に入る際には、その場でクロマキー合成やLUTを適用させ、より仕上がりに近い状態でのプレイバックを可能にするIN2CORE社のビデオアシストシステム『QTAKE』を活用。このQTAKEで、より質の高いマルチカメラ収録とプレイバックを実現したパナソニック映像のCM制作現場取材した。

導入先

パナソニック映像株式会社は、パナソニック系列の映像制作やポストプロダクション・スタジオ業務に携わっていたグループ会社での合併を経て設立された。大阪と東京を拠点に、ドラマ / CM撮影、ライブ中継、編集、カラーグレーディング、VFX制作、MA、CG、ディスクオーサリングなど、映像制作と技術サービスを幅広く提供している企業だ。映像業界のさまざまなフィールドから集まった知識・技術を活かし、誰かの「想い」をカタチにして「伝える」ビジュアル・ソリューションを手がけている。

ハイエンド向けの映像制作を担当する同社の撮影チームには、カメラマンからDITまで映像制作のトータルワークフローを支える人材が集結。CM制作の現場では、その場で合成やLUTを適用させ、より仕上がりに近い状態でのプレイバックを可能にするIN2CORE社のビデオアシストシステム『QTAKE』が活用されている。

ビデオアシストシステム『QTAKE』採用のきっかけ

■ 導入の経緯

当初、パナソニック映像では3~4台のカメラ構成の場合、映像をマルチ画面で収録していた。しかし、撮影現場でクライアントから各カメラソースのプレイバックを全画面で希望されることが多く、その際は拡大表示で出すしかなかった。この対策として、複数のHDレコーダーを使用したり、マルチチャンネルHD収録が可能な4Kレコーダーに収録したりしていた同社。だが、これだと各映像ソースの同期が必要になるほか、プログレッシブへの変換など、さらに制作工程・機材が増えてしまう課題を抱えていた。CMの制作現場では、時間と予算の制約で需要が高まるマルチカメラ収録と、現場でのプレビューが重視される。そのため、収録とプレイバックを効率化できる機材が必要となって機材選定を開始。マルチチャンネル収録ができるレコーダーや他のソフトウェアと比較した結果、業界で唯一、制作現場で求められる幅広い機能の一つの製品でカバーしていた『QTAKE』を2022年4月に導入した。

■ 現場からQTAKE指名の声が増えてきた

パナソニック映像でCMを中心にDITとして活躍し、技術チームのリーダーを務める中村 貴志氏(以下、中村氏)は、QTAKEの知名度が採用までの一歩をさらに進めたと話す。

中村氏「3年ほど前、CMの背景撮影でタイヘロケに行きました。その際、現地の機材屋へ立ち寄ったところ、QTAKEを勧められました。しかし、当時は使用経験がなかったので、結局は日本から持ち込んだ機材で対応したということがあります。特に海外の撮影現場や撮影チームが関わるプロジェクトではQTAKEが主流として導入されているようだとなり、扱える(操作を覚えていた)方がいろいろ便利だと感じたのも導入の決め手になりました。DITの制作現場では、QTAKEが世界標準になり始めている気がします。」

同社では、以前よりクライアント側からQTAKEのオペレーション部分を依頼されるケースもあったそうだ。クライアントへの要望に対してさらに柔軟に応えたいと、QTAKEの追加が決まった。

システム構成



マグライナーミニ(以下カート)に、コンパクトなライブスイッチャー2台を搭載。QTAKEはカートの上段に配置し、MacBook ProとAJA社のビデオI/Oデバイスを接続してQTAKEを操作している。QTAKEの隣ではAdobe Premiere Pro(以下Premiere)を稼働させ、中村氏がある現場で合成用の素材やテロップを作成。QTAKEへ送り込んでそのまま素材出しができたり、QTAKEのプレイバックとPremiereの出力をスイッチャーで合成できたりと、編集にも携わっていた中村氏の経験を活かし、Premiereで臨機応変にレイアウトを調整できるシステムが組まれている。

QTAKEで収録した映像は外部ストレージに保存。そして、Premiereからはネットワーク経由で収録素材を見に行く形が取られているため、Premiere上ですぐに素材を利用できる。

また、カートの背面側に設置されたSDIビデオルーターは、QTAKEの操作画面から直接設定を変更できる。そのため、ビデオの入出力を即座に切り替えることが可能。案件によって多少の変動はあるが、パナソニック映像では大手飲食店や飲料メーカーのCM制作現場で、上記システムをメインにDIT業務を運用している。

導入結果

同社では、クライアントから「CM制作の全工程を任せたい」と依頼が入ることも多い。そのため、映像制作の始まりから終わりまで、トータルワークフローを強化できるQTAKEは欠かせない存在となっているという。

中村氏「QTAKEはプレイバックチェックからメタデータ管理までワンストップで対応できるので、導入後はかなりワークフローを効率化できたと思います。カメラの台数など、撮影時に変更が入ることも多いCM制作の現場でも柔軟に対応できる仕様なので、すでにお客様からは信頼度が高いとご好評をいただいています。」

同社ではLUTのインポート/エクスポート、ライブのビデオ信号あるいはプレイバック時に、カラーグレーディング・エフェクトを適用できるQTAKE拡張モジュール「GRADE」を導入している。また、スマートフォンやタブレット、ノートPCのQTAKE上で表示・出力している映像を受信し、モニタリングできるQTAKE拡張モジュール「Stream」も案件により使用。Streamを利用することにより、iPadやiPhoneにインストールしたQTAKE専用の無料アプリケーション「QTAKE Monitor」を経由してQTAKE上で流れている映像のモニタリングできるため、撮影現場内のあらゆるスタッフへ映像を共有できる。同社の担当する制作現場でも、クライアントを含めた各メンバーが手持ちのiPadで撮影のプレイバックを行う場面がある。そのため、拡張モジュールのレンタルサービスを活用しているのだ。

タイトな撮影スケジュールで、さまざまな作業が発生するCM制作の現場。そんな中、柔軟に対応できるQTAKEの機能だけでなく、リモート撮影/制作/モニタリングまでカバーできる拡張モジュールは、QTAKEのユニークな特徴の一つだろう。

今後の展望



QTAKEを導入し、その「何でもできてしまう」機能の柔軟さに期待が高まっていると語る中村氏。QTAKEがもたらす今後の展望についても話を聞いた。

中村氏「QTAKEを導入してから、これまで繋がりのなかったカメラマンさんや制作チームと仕事をする機会が増えました。」QTAKEを持っている

「扱える”DITとして周知され始めていて、だからこそ、また一緒に仕事がしたいと思ってもらえている感じがしてるんです。今後も、その広がりには期待していますね。」

同社には、中村氏のほかにもDIT業務を担当しているメンバーがいる。現場で高まり続けているQTAKEの需要から考えると、1台ですべての案件をカ

バーするのは厳しいため、2台目の導入を検討していそうだ。

デジタル時代の波により視聴者の目が肥えて、映像制作の幅が広がり続けるコンテンツ業界。QTAKEが持つ多芸多様な機能が、日本のDITでも業界標準として実証される日は遠くないだろう。

アスク・エムイーの導入事例はこちら

<https://www.ask-media.jp/solutions.html>



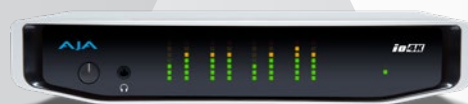
導入製品



IN2CORE QTAKE



AJA Ki Pro シリーズ



AJA Io シリーズ



お問い合わせはこちら

本システムに関する問い合わせ先

アスク・エムイー
Pro Video solution by ASK Corp.

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-21
山脇ビル 7F 株式会社アスク M&E 事業部

取材協力

パナソニック映像株式会社

<https://group.connect.panasonic.com/pvi/>

販売・レンタル先

株式会社 エム・アイ・エム

☎ 03-3556-6708 ✉ info@mim-corp.co.jp

<https://mim-corp.co.jp>